

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>「ふるさとを愛し、夢と希望をもって探究し続け、未来を切り拓く子どもの育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標・目指す子ども像を共有する。 ・入学から卒業までの6年間を見通して指導・支援する。 ・子ども、教職員がつながり、協働する。 ・豊かな教育環境づくりを行う。 		<p>○児童自らが「仲間とつながり粘り強くチャレンジ」を意識し、実行している場面が増えた。</p> <p>○児童の様子や変化に気づき、不登校傾向や児童の困っている問題に組織的対応し、児童の心の安定や不登校の改善につながった。</p> <p>○児童を理解して特性に合わせた支援が進められ、落ち着いて学習や活動に向かえるようになってきた。</p> <p>△ICTの効果的な活用を一層図り、児童自らが課題に向かって学習する力を育てていく。</p> <p>△発達支持的生徒指導を充実させ、日頃から心理的安全性のある環境、良好な人間関係、豊かな心をはぐくむ。</p> <p>△日常的なルールや約束に対する課題が続き、指導の効果は一過性で、主体的な行動改善に至っていない。</p>		<p>「自ら学び 仲間とつながり ともに伸びる 網野南小」</p> <p>○学び合う学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって主体的に学ぶ子の育成 ・粘り強く問題解決に取り組む子の育成 <p>○つながり合う学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを伝える力・相手の思いを聴く子の育成 ・仲間とやり遂げる子の育成 <p>○育ち合う学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を思いやる心の育成 ・よさや違い、多様性を認める心の育成 <p>○信頼される学校</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	学校関係者評価	
教育課程	<p>○「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」を高める。</p> <p>○探究的な学びによる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。</p> <p>○目標と指導と評価の一体化により学力を充実・向上させる。</p> <p>○自己調整力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の様子や学力テスト等の結果から個々の実態を丁寧に把握し、課題に迫る指導・支援を行い、実践を教職員間で丁寧に交流し合う。 ・問題解決的な学習を意図的に仕組み、課題の追究・解決の経験を積み重ねさせる。 ・教科横断的なカリキュラム・マネジメントを行い、地域素材を生かした探究的な学びを充実させる。 ・授業や家庭学習において目的に合った効果的なICT活用を行い、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させる。 ・自ら学ぶ意欲や自己調整力の向上と自主的・自発的に学習できる力を身に付けさせる。 ・ねらいが達成できる授業をめざし、教職員研修や実践交流を行い個々の実践力を高める。 	<p>○どうすれば探究的な学びが実現できるかを今年度の授業研究のテーマにし、授業づくり・授業改善に取り組んだ。児童の関心が高まる課題設定や豊かな地域素材を活用した学習を通して主体的に学ぶ姿や進んで対話する姿が増えてきた。</p> <p>○評価の内容や方法を見直し、児童をどのように見取るか、どのような姿をめざして指導・支援するかを教職員で共通確認しながら教育活動を推進した。</p> <p>△個の学力差が大きく、低位層の学力は厳しい状況である。授業を見直し学習意欲の向上やICTを活用した個別学習、家庭学習に取り組んできたが、課題の改善や個人差の縮まりには至っていない。</p> <p>△学習につまずいている児童に対して授業以外での指導時間の確保がますます厳しい状況にある。教育課程や指導体制のダイナミックな改革や日々の積み重ねが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で必要な学習を保障することは大変である。授業参観を通して、個人差もある中で班やペア等、学習形態を工夫されていることが分かる。きめ細かな学習指導ができるよう複数教員で指導する等、指導体制を工夫できるとよい。 ・紙からデジタルの家庭学習が増え、保護者が内容を把握するのが難しくなった。すぐに答えが確認できることに善し悪しがある。 ・「教師が教える」から転換し、子どもが学びたい方法で探究し、失敗しながら子ども自身が学ぶ姿に変わってきている。 	

<p>学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>	<p>生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の変化や気になる様子を捉え、いじめを早期に防止する。 ○人を思いやり大切にする心を育てる。 ○丁寧なアセスメントと個に応じた支援を行い、不登校を未然に防ぐ。 ○学校や学級が、個のよさや違い、多様性が認められ誰もが安心できる場所にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期に発見し対応できるよう、日頃から変化への敏感な気づきと情報共有に心掛け、組織的な動きを基本にする。 ・学級活動や異年齢活動を充実させ、児童の安全・安心できる居場所やよりよい人間関係を築く。 ・目標に向かって仲間とつながりやり抜く経験と振り返りを通して、人と関わる力を高めさせる。 ・教育活動を通して、児童の個性の発見、よさや可能性の伸長、社会性の発達を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して過ごせる居心地のよい学級、何でも話しやすい学級づくりを大切にしてきた成果が児童の意欲的な言動に表れてきている学級がある。 ○教職員は、小さな変化に気付ける感覚を大切に、気になることを共有したり早期に対応したりした。また、情報を共有し全員が同じ方針のもとで動くことを大切にした。 <p>△心理的安全性が十分に確保できていない学級があり、児童の言動が乱れたり、安心して教室で過ごせない児童が出現したりしている。担任以外も関わりながら組織的に児童への指導・支援をおこなってきた。</p> <p>△全校的に言葉の乱れや思いやりに欠ける言動が増えている。教職員の指導や肯定的な評価、児童会の取組などを組み合わせて改善に努めてきたが、一時的な改善に留まったり周りに流されて継続しなかったりする弱さがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・注意は、自分を否定されたと感じてしまう子どももいる。丁寧に思いを聞いて、しっかり受け止めてくれることを子どもも望んでいる。 ・複数の目で見られることを大切に、組織的な動きが大事である。 ・保護者は、一方の話だけを聞いて判断してはいけないと思う。よい方向に変わるように、子どもに声かけができるとうい。 ・名前の呼び方は、お互いの関係が大事である。
	<p>健康・安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自らチャレンジし、あきらめずやり抜く力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって粘り強くやり抜く経験と肯定的評価を重ね、自発的・主体的な力を高めさせる。 ・家庭と連携を図り、自ら考えてよりよい生活を実践しようとする取組や活動を行う。 ・外部講師を招き専門家による交通安全教室・非行防止教室・薬物乱用防止教室や訓練等を計画的に実施し、危険回避や正しい判断力を育てる予防的指導、安全教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体力づくりや駅伝に対して熱心に向かう児童が多く、市小駅伝大会での毎年の上位入賞（今年度は優勝）は自校の強み・児童の目標となって主体的に取り組む意欲につながっている ○外部講師の専門性を生かした学習は、理解の高まりに大いにつながった。教職員研修を通して、防犯意識が一層高まり、玄関施錠の具体的な対策が始められた。 <p>△家庭と連携して健康維持・促進を目的に規則正しい生活習慣の定着をめざした取組を計画的に実施し、児童自身に考えさせてきたが、個人差は大きい。</p> <p>△年間通じてけがが多かったが、未然に防ぐことができたものもある。日常的な廊下歩行や登下校、校内ルールなどの指導を通して、危険の回避や正しい判断ができる力を育てる予防的指導や安全教育を大事にしていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に元気である。 ・あいさつ運動時、元気がなく気になる子どもを見かける。就寝が遅い等、生活リズムも関係しているように思う。 ・ネット、ゲーム等が長時間にならないよう家庭のルールをつくり、守られているだろうか。大人も長時間化している。 ・学校でも家庭でも使用時間が増え、視力低下も気になる。使わない日があってもよい。 ・学級懇談会では、場の工夫をすると、保護者同士が家庭での悩みなどを気軽に話せると思われる。

<p>特別支援教育</p>	<p>○アセスメントを丁寧に行い、個の教育的ニーズに応じた指導や支援を実践する。 ○互いの頑張りを認め合える心を育てる。 ○組織体制を整備し、部の動きを機能的にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態把握や理解、指導の方向性を全教職員で確認し、個に応じた適切な指導・支援を行う。 ・あらゆる教育活動の場面を通して個のよさや違い、多様性を大切にし、互いの頑張りを認め合えるよう肯定的評価を積極的に行う。 ・組織的な指導・支援体制を整え、計画的な実践と評価を繰り返す。 	<p>○部会を毎週定期的開催し、個々の実態やその背景を丁寧に見取ってアセスメントを充実させ、適切な指導・支援を行うことに努めることができた。 ○必要に応じて保護者や専門機関と連携しながら、タイミングを逃さずに適切な指導・支援を大切にしてきた。 △個々の得意や苦手、特性を理解し合い、分け隔てなく平等・公平に関わることができるよう理解教育を行ってきた。しかし、心ない言葉を発する児童があり、互いを認め合える心に弱さがある。 △年間の指導計画が形式的にならないよう、実態に合わせて見直し、柔軟に調整し対応していく必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる子どもの状況は様々である。行事等でも個に応じた支援が必要である。まずは学級の中で心を育てることが大事である。 ・子どもの状態は日々変わるので、変更可能な計画を何パターンか想定したり、選択肢をもっておいたりすることが大切だと思う。 ・支援の在り方は、複数の目で多面的多角的に見取ったり見直したりしてほしい。
<p>危機管理</p>	<p>○日頃の観察力と危険予知能力を高め、事象や事故の発生を未然に防ぐ。 ○危険を早期に発見し、組織的に早期の対応を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を一元化し、集合や黒板・回覧板等を活用し全教職員間でタイムリーに共有する。 ・危機管理マニュアルの内容を理解し合い、いざというときに素早く行動できるよう日常的に確認し意識化を図る。 ・保護者と丁寧に連携を図り、よりよい関係を築くようにする。 	<p>○様々な情報が全教職員に届くように、集約・発信を一元化するとともに、よりよい方法を探りながら分掌主任からの積極的な発信が増えてきた。 ○落ち着いた校内の状況に対応するため、教職員の危機意識や変化や問題に気付く感覚を高めた。 △家庭の協力や連絡が必要な登下校や家庭生活に関する依頼等はアナログからデジタルに移行し、見落とし等により周知徹底の難しさが生じている。そのことも踏まえて、より丁寧な開封確認やこまめな呼びかけに留意する。 △保護者の願いや思い、要望等を真摯に受け止め、丁寧な対応を行うことでよりよい関係を築けるように努力し続ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡方法のデジタル化は、何度もアプローチすることで、習慣づくと思われる。 ・デジタルの連絡ツールはありがたい。紙は手元に届かないことがある。電話はタイムラグができるが、一斉に連絡が届くのがよい。重要度を分類できるとさらによい。 ・親の代わりに世話することもある祖父母も使える連絡ツールであるありがたいと思うことがある。
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にも教職員にも分かりやすい目標を設定し、PDCAサイクルを機能させながら教育目標の達成、目指す子ども像の実現に迫る。 ・学習の基盤である安心して学び合える学級づくりを大切にするとともに、研究推進部が舵を取りながら探究的な学びの研究を継続し、児童が主体的・対話的で深い学ぶことができる授業づくりに取り組む。 ・児童一人一人のよさや得意を伸ばすとともに、苦手やつまずき、困り感、その背景等を丁寧に見取り、個に合わせて適切な指導や支援、相談を組織的に行い、誰もが安全で安心して学校生活が送れるようにする。 ・必要なときに保護者や地域の支援や協力が得られるよう、日頃からよりよい関係を築くよう努める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と学校が一緒にやっていく雰囲気をつくりたい。 ・ほめられる場面を意図的に仕組み、ほめることを増やす。 ・あいさつができる子どもを育てるには、まずは大人がその姿を見せたい。 	